



軽防協ニュース速報

2016年第3四半期(7月－9月)の伝染病発生状況

2016年11月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。従って、以下に、オーストラリアの 2016 年第 2 四半期の報告を記載する。その後、その他の国の 2016 年第 3 四半期の報告を通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2016 年第 2 四半期の報告

Animal Health Australia(AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly(AHSQ) から編集

<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary>

州および準州の報告

オーストラリアでは、州や準州に動物の疾病を管理する責任がある。国の動物衛生プログラムが動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局(AHA)によって管理されている。

ニューサウスウェールズ州

ニューサウスウェールズ州の第一次産業省の Rory Arthur の情報

水胞性口炎の除外

6 月下旬にハンターバレーのサレブレッドの牧場で、馬の獣医師が両鼻孔からの血性分泌物と四肢の浮腫を認めた 1 歳の牝馬を検査した。その分泌物には粘膜組織塊が含まれていた。その馬の心拍は正常高値 (1 分間に 60 回、1 歳では通常 45~60 回) であり、微熱 (38.8 度、通常は高くても 38.2 度) であった。

翌日馬は元気で機敏であったが、肢の浮腫は、触診時に疼痛を示さないが、一晩で悪化した。口の中には小さな小胞 (液体で充満した水疱) があった。上気道の内視鏡検査では、鼻粘膜に広範囲の重度の炎症があり、背側の鼻腔には潰瘍と水疱があった。水疱性病変の存在を考慮し、獣医はローカルランドサービスの行政獣医官に連絡をとり、水胞性口炎、

ヘンドラウイルス、馬伝染性貧血および馬ウイルス性動脈炎を除外するためにサンプルを提出した。全ての試験は陰性であった。

鼻腔スワブを用いた PCR 検査ではウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) がわずかに検出されたが、無関係であろうと見なされた。

治療により初めは回復したが、馬の状態は悪化し、安楽殺された。剖検により、重度で多巣性かつ広範囲な線維索性壊死を伴う、急性出血性口内炎、食道炎、胃炎、腸炎が認められた。出血性の皮膚炎および筋炎も発見され、筋組織は壊死していた。病理組織学検査では、多臓器での血管障害が、主に結合組織に認められた。

この馬と接触した馬は健康であった。この報告書の時点で、確定診断できるような新たな検査結果は得られていない。この牝馬は、典型的な出血性紫斑病ではないが、類似した自己免疫疾患におそらく罹患したと思われる。

西部オーストラリア

西部オーストラリアの農業食品省、Jamie Finkelstein の情報

馬呼吸器病症例：アフリカ馬疫およびヘンドラウイルス感染症は除外

4月に南西農業地域の6歳クォーターホースが呼吸器症状と嚥下困難を示したという馬主からの情報を開業獣医師が調査した。翌日馬主は同施設の他の4頭も同様の臨床症状を示したと報告した。

開業獣医師は包括的な特性調査と感染馬の臨床検査を実施した。これらの馬は明瞭な顔面浮腫があるが、その他に特徴的な所見は無かった。鑑別診断にはヘンドラウイルス感染症およびアフリカ馬疫 (AHS)、フェスク (ウシノケグサ) 中毒が含まれていた。開業獣医師は血液サンプルを集めた後、組織の浮腫を軽減させるための対症療法を行い、それにより24時間後には約30%臨床症状が改善した。

DAFWA の研究所では、様々な生化学検査が行われ、クレアチンキナーゼの中程度の上昇が最も注目すべき所見であった。さらなる調査では5頭全てがアボカドの切り株に接触していた。病歴および臨床症状、中程度のクレアチンキナーゼの上昇が、アボカド中毒による中程度の心筋細胞障害と一致することから、アボカド中毒であると推定診断された。馬をアボカドの切り株に近づけないようにすると、症状は回復し再発しなかったことによりこの診断は支持された。

DAFWA の研究所と CRISO オーストラリア動物衛生研究所は、この疾病の原因として類似した臨床症状があるヘンドラウイルスと AHS を除外した。

これらの疾病の除外は公衆および馬の衛生対策にとって重要である。ヘンドラウイルスに感染している可能性がある馬は様々な臨床症状を示すので、呼吸器症状のある馬を検査するときは、開業獣医師と畜主の安全性を確保する重要性を DAFWA は開業獣医師に、継続的に注意喚起を行っている。

ビクトリア州

報告事項なし。

クィーンズランド州

報告事項なし。

タスマニア州

報告事項なし。

サウスオーストラリア州

報告事項なし。

ノーザンテリトリー州

報告事項なし。

2016 年第 3 四半期の報告

アルゼンチン

報告事項なし。

オーストラリア

冒頭で述べたように、2016 年第 2 四半期の報告は上述のとおりである。

カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

2016 年 7 月 1 日から 9 月 30 日の間に、サスカチュワン州の離れた 3 施設で、総計 9 例の EIA 陽性馬が確認された。感染が確認された施設のうち 2 つは疫学的に関連しており、一方は 100%の感染率 (6/6) であり、もう一方の施設では急性の臨床症状を示した 1 例が斃死した。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告事項なし。

フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による感染症

2016 年 9 月 2 日、カルヴァドス県の乗馬学校で 1 例に EHV-1 感染症例が確認された。感染馬は高熱の臨床症状を示した。陽性診断は鼻咽頭のスワブを用いて PCR により行われた。

2016 年 9 月 12 日、イゼール県で 3 歳の純血種の牝馬 1 例に EHV-1 感染症例が確認された。患畜は高熱の臨床症状を示した。陽性診断は鼻咽頭のスワブを用いて PCR により行われた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経症状

2016 年 8 月 3 日、ヨンヌ県で EHV-1 による神経症状が 1 例確認された。感染馬は 16 歳のフレンチサドルブレッドの牝馬の競技馬であった。その患畜は嗜眠および運動失調、発熱、硬直といった症状を示した。患畜はワクチンを接種されており、他の 34 頭の馬と接触していた。陽性診断は鼻咽頭のスワブを用いて PCR により行われた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

EHV-4 による呼吸器疾患が 7 件発生し (5 件は 1 例、1 件は 2 例、1 件は 4 例)、フレンチサドルブレッド (1 件) およびサラブレッド (1 件) が感染した。これらの発生はアリエ県、カルヴァドス県、ドローム県、オルヌ県、セーヌ・エ・マルヌ県およびヴァンデ県で起こった。感染馬は発熱および鼻漏、発咳、呼吸困難といった臨床症状を示した。全ての発生において陽性診断は鼻咽頭のスワブを用いて PCR により行われた。

ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

ロタウイルス

2 症例 2 件の発生が報告され、サドルブレッド (1 件) が感染した。これらの発生はカルヴァドス県およびマンシェ県で起こった。感染馬は下痢の症状を示した。陽性診断は糞便と直腸のスワブを用いて PCR により行われた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年第 3 四半期に、4 件の発生が報告された (2 件は 1 例、1 件は 2 例、1 件は 3 例)。これらの発生はシャラント県、オート・ガロンヌ県、ロワール・アトランティック県およびモゼル県で報告された。感染馬は鼻漏、発熱およびリンパ節の腫脹の症状を示した。陽

性診断は鼻咽頭のスワブおよび膿、膿性鼻汁を用いて PCR により行われた。

ドイツ

報告事項なし。

Dr.Boese 研究所有限公司 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

馬伝染性子宮炎 (CEM)

2016 年第 3 四半期にアイスランドックホース (5 例の種牡馬、1 例の牝馬) および血統が不明の 3 例の種牡馬を含む 8 件 9 例の馬に CEM が確認された。陽性診断は生殖器スワブ培養および PCR により行われた。

エールリヒア症 (*Anaplasma phagocytophilum*)

エールリヒア症が騏馬のウォームブレッドで 1 例確認された。入手可能な臨床情報はなかった。陽性診断は EDTA 血を用いた PCR により行われた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4)

2016 年第 3 四半期に EHV-4 が 1 例の子馬で確認された。陽性診断は鼻腔スワブを用いて PCR により行われた。患畜は中枢神経症状を示した。

A 型馬インフルエンザ

2016 年 8 月 12 日に既に報告されているように、Dr.Boese 研究所有限公司がドイツのニーダーザクセン州の施設で 1 例の EI を報告した。感染馬は鼻漏を示し、ワクチン未接種であった。陽性診断は鼻咽頭のスワブを用いて PCR により行われた。

ロタウイルス

ロタウイルス感染症が 2016 年の第 3 四半期に異なる 2 施設の 2 頭の子馬で確認された。感染馬は下痢および軽度の疝痛の臨床症状を示した。陽性診断は糞便サンプルの抗原検出 ELISA により行われた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫が、2016 年の第 3 四半期に、12 件の異なる施設で 12 例に確認された。感染馬は発熱、鼻漏およびリンパ節炎 (3 例) といった臨床症状を示し、鼻咽頭スワブおよび下顎リンパ節の膿瘍材料 (6 例)、喉嚢洗浄液 (3 例) による細菌培養および PCR により行われた。

香港

報告事項なし。

アイルランド (共和国)

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

1 例の EHV-1 による流産が 2016 年の第 3 四半期にマンスターで報告された。さらなる情報は入手できなかった。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年第 3 四半期に 19 例の腺疫が、レンスター (13 例) およびマンスター (6 例) でみられた。診断は 7 症例においては PCR でなされた。

イタリア

報告未着。

日本

ゲタウイルス感染症

2016 年 8 月 2 日から 9 月 17 日までに 1 施設で 8 例 (2 歳馬が 7 例、3 歳馬が 1 例) のゲタウイルス感染症が確認された。8 例中 5 例はワクチンプログラムが未完了であった。臨床症状は全ての馬で発熱および浮腫、発疹であった (訳注: すべての症状が認められたわけではない)。陽性診断は日本中央競馬会の競走馬総合研究所で RT-PCR により行われた。

マレーシア

報告事項無し。

ニュージーランド

報告未着。

シンガポール

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アイルランドから輸入されたサレブレッド 1 例に頸部の膿瘍がシンガポールの着地後検疫センターで発見された。その馬は輸入前に Equilis Strep E ワクチンを上唇の粘膜に、EI ワクチンを頸部の筋肉に同時に接種された。頸部のワクチン接種部位が膿瘍となり、そこから腺疫が分離、培養された。分離株は SeM の塩基配列解析によりワクチン株と同じ配列であることが判明した。検査機関は AVA の地方研究所であった。

南アフリカ

アフリカ馬疫 (AHS)

それぞれ独立した AHS の発生が、2016 年 7 月、8 月および 9 月に南アフリカの汚染地域で、群特異的（訳注：AHS の特定の血清型のみではなく、9 つの血清型全てを検出する）な RT-qPCR により確認された。2016 年の同時期に、南アフリカの西部ケープ地方の AHS 制御地域では AHS の流行はなかった。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1)

2016 年 7 月に EHV-1 の発生が 1 例あり、ハウテン州プレトリア東部のプレトリア大学の獣医遺伝学研究所で RT-qPCR により確認された。臨床的な詳細とワクチン接種状況は不明である。

神経型 EHV-1 が 1 例、2016 年 7 月にクワズール・ナタール州で運動失調を呈した馬の RT-qPCR 検査により診断された。

2016 年 7 月に、フリーステイト州で 1 例のサラブレッドに流産が発生し、プレトリア大学の獣医遺伝学研究所で流産胎子の RT-qPCR により EHV-1 と確認された。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

2016 年 7 月に、EHV-4 による呼吸器疾患がプレトリア大学の獣医遺伝学研究所で肺と脾臓を使った RT-qPCR 検査により確認された。死亡したことと呼吸困難により AHS ウイルスが疑われたが、AHS ウイルスと馬脳症ウイルス (EEV) は RT-qPCR 検査によりこの症例では陰性であった。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

エールリヒア症

2016 年第 3 四半期にエールリヒア症が 1 例報告された。臨床症状は発熱であった。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4)

2016 年第 3 四半期に EHV-4 が 1 例確認された。臨床症状は発熱と呼吸器症状であった。診断はペア血清で、血清間で有意な抗体価の上昇があった。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第3四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

Clostridium perfringens (A型β2毒素)の発生がケンタッキー州(2例)とミネソタ州(2例)で報告された。

東部馬脳炎 (EEE)

当期では総計で49例のEEEが報告された。最も症例数が多かったのがフロリダ州およびサウスカロライナ州であり、症例の大半はEEEに対するワクチンが未接種であった。

ウマヘルペスウイルス (EHV)

EHV-1およびEHV-4は多くの州で広く分布し、EHV-4は主に若齢子馬の呼吸器病に関連していた。EHV-1による神経疾患が1例、ワシントン州で診断された。

ウマヘルペスウイルス2型および5型 (EHV-2、EHV-5)

EHV-2とEHV-5の活動がいくつかの州で検出され、主に呼吸器疾患の臨床症状と関連していた。

馬伝染性貧血 (EIA)

EIAウイルス感染がニューヨーク州とオクラホマ州で2例診断された。

馬インフルエンザ

馬インフルエンザはアメリカ合衆国では風土病である。2016年第3四半期では発生がカリフォルニア州、デラウェア州、フロリダ州、ケンタッキー州、ニュージャージー州および

ニューヨーク州で報告された。

ウマ単球性エールリヒア症 (EME)

メリーランド州およびウエストバージニア州で8月と9月に EME が全部で3例確認された。

馬ピロプラズマ病 (EP) (*Theileria equi*)

Theileria equi による EP の流行が2件テネシー州で確認され、1件は同一調教師のもと管理されている17頭が関与した。最近、同感染症の流行がさらにワイオミング州とユタ州で診断された。感染が確認された全ての馬は非公認レースに使われているクォーターホースであった。

増殖性腸症

Lawsonia intracellularis 感染がケンタッキー州の子馬1例で診断された。

狂犬病

オクラホマ州およびフロリダ州で狂犬病が1例ずつ報告された。

ロドコッカス・エクイ感染症

ロドコッカス・エクイ感染症はアメリカ合衆国では風土病である。この感染症の有病率を推測するのは大変困難であるが、当期間に少なくとも40例は細菌学的に確認されている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫はアメリカ合衆国では風土病である。当期間に複数の流行が全部で17州において記録されている。おおよそ99症例が36施設で確認されている。*Streptococcus equi* と EHV-4 の混合感染がフロリダ州で1例報告されている。

サルモネラ感染症

2016年第3四半期にサルモネラ感染症の発生および流行が報告されている。2例はB群 *Salmonella* 属菌、10例がC1群 *Salmonella* 属菌、2例がD1群 *Salmonella* 属菌によるものであった。

ウエストナイルウイルス (WNV) 脳炎

WNV 脳炎が17州で報告された。おおよそ88例が診断された。大多数が安楽死もしくは死亡した。症例の大半はこの疾病に対するワクチンプログラムが未完了であった。

ベネズエラ
報告未着。